



12年前日記

2000年1月30日
(日)

山田夫妻

【2000年1月30日(日)】*2012年1月30日(月)記

9時30分、起床。起き抜けから、身体中の毛穴という毛穴から勤劳意欲が次から次へとプシュプシュ噴出してくるのが手に取るように分かる。そんなでも働く日じゃない日曜の朝には、いつでも慣れシリーズがあった。バンコク慣れ、チェンマイ慣れ、帰ってきたバンコク慣れ、ラチャブリ慣れはしなかったなあ、そして、最新のメソト慣れも早2日目。ただ昨日は街中をウロチョロしただけなので、実質今日が初日みたいなもんだ。ちなみに、昨晚の水シャワーがくせになったわけではないが、連泊することに(180B)。10時30分、朝一でバイクに乗る予定がもうこんな時間に。部屋を出る前に、アナタハンカチゴッコをして、忘れ物がないか確かめたりしてたからだよ。まあ、でも、24時間乗り放題だったって、よくよく考えるまでもなくガソリンは自腹。世の中そんな甘くない。そもそもバイクはメソト慣れの為じゃなくて、難民キャンプへの交通手段なんだから。でも、昨日今日は土曜日曜だから、あくまでメソト慣れバイク慣れのためだけど、それが何か？ まあ、日曜の朝から一人で熱くなっても仕方ない。ひんやりしたホテルの駐車場に鎮座まします俺のバイクに跨り、エンジンをかける。アクセルを握り、ゆっくりと公道へ走り出す。昨日のガソリンがまだまだ残っている。特に行くあてはないので、適当なバイクを選んで、後をつけてみることにする。ナイスアイデア！ バイク慣れにはうってつけ。尾行相手の皆さんは、街中はそんなスピードを出さないが、ちょっと街を外れると結構なスピードを出すので、いつも簡単に振り切られてしまう。安全運転が旗印。巻かれるたびに、尾行バイクを変えるのだが、あんま尾行相手をコロコロ変え続けると、ふと気付くと一体どこにいるか分からなくなるので、うまく尾行できるバイク相手でもあまり深追いはせずに適当に切り上げる勇気も必要だ。後進の自称プロ戦場特派員諸君、先生、先輩、人生の先達の尊い教えが分かったかい。こんなことをできるのはよっぽど暇人か、俺か、くらいだろう。メソトはそこそこ大きな町だが、町を離れるとすぐに田園風景が広がる。景色なんてみないよ。少なくとも絶対に風景描写なんてしねえ、単なる自己満足に過ぎねえだろ、「タイ メソト 2000年1月」で動画でも検索した方が全然マシだ。ま、だって、基本的に前のバイクのケツを見てるだけだもん。よそ見してたら危ないでしょ。しかも半裸だもん、もしコケたら痛いじゃん。あ、まだ言ってなかったっけ？

ほら、2番目かに尾行したおじさんが暑かったのか、走りながら服を脱ぎ脱ぎし始めたわけ。俺はさすがに走りながらは無理だったので、尾行を中断し、路肩にバイクをとめて、服を脱いだのさ。半裸にカメラバックを背負うとバイクの振動でちょうど乳首が見え隠れしつつ、まあ、強いて言えば、誘ってるブラジャーだ。ふと後ろを見たら、乳首まで見せるのはちょっと恥ずかしいって感じの踏ん切りが悪い半裸男が尾行してたらイヤだろうなあ、皆さんもそうだろう。そんな覚悟のファッションになって、次から次へと何の罪もない連中を尾行の餌食とする。途中、ガソリンが減ってきたので、この格好でガソリンスタンドに乗り付ける(40B)。道すがらの屋台で若い女がやきとりを焼いていたので、一本購入(10B)。まあ、この手の、何の意味もない、非生産的なお楽しみ時間はアツという間に過ぎ去るもの。タイの片田舎まで覚悟を決めて

わざわざ行ったのに、なにをしているんだってお叱りの声には、仕事休みの日曜に尾行しようがカメラブラ姿になろうが何しようが俺の勝手だと。さあ、もうすぐ13時、もうそろそろ戻り始めないとすぐにレンタバイクを返す時間になっちゃう。昨日の午後あまり乗らなかった分も含めて、今日の走りです十分元は取った気はする。時間の長さじゃなく、中身の質で勝負って大事なことじゃん。一応、バイク屋の近くに来てから、服を着る。半裸カメラブラ姿でバイクを返しに言ったら、うちのかわいいバイクにどんなプレイをしたんだい、混ぜてくれよと邪推されそうじゃん。そんな指一本触れちゃいけないのに、あくまでそういうプレイの意味ではね。そんな気遣いのおかげか、無事に一晩人質にされたパスポートを返して貰う。なんかされちゃったかもしれないが、見た目には分からない、バイク同様。お互い様、駆け引きは引き分け！ そんなことより、問題は今返したバイクにまだちょっとガソリンが残っちゃったこと。明日も借りるつもりだが、このガソリンが残ったバイクを借りたいものだが、きっと残りのガソリンは全部キレイに吸われちゃうんだらうなあ。13時30分、セブンイレブンで昼飯を買い込み(90B)、歩いてホテルに戻る。シャワーを浴びて、昼飯というかおかしを食べて、昼寝。何時だろう。窓の外をみるともう日が落ちかけている。い、痛ッ！ 身体中がヒリヒリする。シーツがこすれても痛い。なにか、虫にさされたのだろうか。浴室の鏡でみると上半身が真っ赤になっている。でっかいへんな形のブラをつけていたみたいのところだけ白いが、他はただれたように水ぶくれ気味の真っ赤かの日焼け。ド変態みたいなカメラブラをしたおかげで、最後の砦、両乳首は守ったと言えよう。ノーブラ怖い。キャーキャー、染みる染みすぎ～と一人で大騒ぎしながら水シャワーでクールダウン。ちょっとしたやけどみたいになっているからか、服を着るのも痛い。散々カメラバックは命の次に大事と広言し、ずっと背負ってきたのになんですが、そうでもない気がしないでもないが、命の次の座にできたてホカホカの「日焼けでヒリヒリしているのにカバンなんて背負えるか」って思いが台頭、あえなくカメラバックは三番目に降格。20時、という順位の入れ替えのせいで、ホテルの部屋にカメラバックを残して、夕飯を食べに行く。すっげえ爽快。タイにきて、50日近く過酷で地味な修行を続けてきた甲斐があった。自分でも驚くほど目にみえての目覚しい成果だ。はじめて身軽な姿で歩くとまるで空を飛ぶが如く。俺の読み通りだ。日々の鍛錬の積み重ねがいざというときものを言う。暑いさなか重い荷物を背負ってふらつく練習。灼熱のタイで、厚手の靴下はいて、トレッキングシューズもいい感じにこなれてきた、犬の牙跡も今じゃ、オシャレなアクセント。今ジャングルを従軍してもガンガンいけそう。そんな目処はないのだけ残念だけど、今はまだノースピークだけどな。修行の成果を一步一步踏みしめながら、行きたくもないタイ飯屋に赴き、夕飯は鶏肉と野菜炒めを御飯に乗せたのと、トムヤムクンスープと、コーラーで締めて58B。久方ぶりに飯もゆっくり食った気がする。今まで食事中はカメラバックを隣の椅子や椅子の下に置いて、いつも飯を食いながらも盗まれないように注意を払ってきた。混んでいたり、あまりに床が汚いと背負って食べたときすらもあったなあ。今気付いたが、食事しながらカメラバックを安全に守るために、マックだ8番ラーメンだの表面上は治安が良さそうな小綺麗な店に足しげく通っていたのだ、無意識のうちに。21時、夜気を吸い込み、気分がいいので、またセブンイレブンに立ち寄り、どうでもいいものを買い込み(63B)、ホテルに戻る。我慢の限界だった。外にいるときはどこに間者がいるか分からな

いから、気を張り詰めていたからさほど気付かなかった。ちょっと汗ばむだけでも身体がヒリヒリ痛い。仕事とは言え、つくづく因果な商売だ。こんなひどい手負いを負っても、労災なんて降りない。すぐに水シャワーを浴びて、おとなしく読書。1時、すぐに日焼け跡がまた熱をもってきたようで、身体がカッカしてくる。また水シャワーを浴びて、ファンの下で身体を冷やす。まだまだシーツに触れるだけで痛い。腹にだけタオルを巻いて、なんとか目をつぶり、強引に就寝。(昨日の2012年の俺は、メソト二大事件の一発目が明日か明後日のどちらかに起こりますとか言ってましたが、今日ではなかったですね。記憶違い、仕方ないお忘れかもしれないが12年も前の話だもん。ド変態なカメラブラ姿でツーリングだ、日焼けが超痛いなんて事件じゃねえんだ、じゃあ、明日ですね、一発目の事件は。まあ、最初から知ってたけど)。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月30日(日)』

<http://p.booklog.jp/book/43322>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43322>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43322>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.